



## 西洋の質料的地観

---

The Western Material View of Earth

# 天観と地観の関係

西洋において天観(天の観)と地観(地の観)の区分は、超越天(超越的天)と内在天(内在的天)を基準として異なる。

- 超越天の観点

- ◆ 天地全体を包含(イデア、唯一神)

- 西洋の実体中心の存在論的宇宙観

- ◆ 天地、特に地は形相が実現される質料的存在と見

- ◆ なされる 内在天(天地を陰陽と見なす)と区分される

# 西洋の質料的地観の概念

西洋の質料的地観は時代と観点に応じて変遷してきており、哲学的背景に応じて多様に発展した。

- 質料的地観の哲学的背景
  - ◆ 超越天の性格に応じて地観が異なる(イデア、唯一神、理性)
  - ◆ 地は形相が実現される質料と見なされる
- 近代以降の変化
  - ◆ 超越天を唯物論的理性と見なす傾向原子論
  - ◆ 的世界観の登場により世界観再構成
- 形相と質料の関係
  - ◆ 天の外の天(超越天)の形相が地(質料)において実現される
  - ◆ 物質と形相の二元論的構造が西洋哲学の基本的枠組み

# 地水火風理論と歴史

地水火風:古代において四つの実体的要素(地、水、火、風)で世界を構成する理論



- タレスの理論
  - ◆ 「万物の根源は水(水)」という実体論的世界観
- 地水火風の発展
  - ◆ エンペドクレス:四元素説の確立と体系化
  - ◆ プラトン:イデア界と結びつけた
  - ◆ 四元素説
  - ◆ アリストテレス:形相論と第五元素(エーテル)の追加

## 世界的影響

- ◆ 西洋哲学全般に影響(マテオ・リッチまで)
- ◆ 仏教天界観にも地水火風輪の概念が登場

# 三機能体系と相關的思惟

デュメジル:印欧神話と西洋において三機能体系が反復的に現れる

- 三機能体系の構成

成

上層部: 宗教機能

中層部: 軍事・政治機能

下層部: 生産・美学機能

- 事例: ギリシャ・ローマ神話

◆

- トロイア戦争の三女神

- テナ(政治)ア

- フロディーテ(生産)

- 相關的原理と地水火風の連結

- ◆ 地水火風に内在する相關的原理

- ◆ 上昇と下降の原理で構成

- 類似した三界(三界)体系

- ◆ 仏教: 欲界・色界・無色界

- ◆ 東洋三才: 天地人

- ◆ インド神話: ミトラ・ヴァルナ・アリヤマン

# 東西世界観の比較

東西洋の世界観は本質的な観点の差異があり、同じ概念でも解釈と機能が異なって現れる。

## 東洋属性(陰陽五行)中心

- 関係と属性中心の世界観
- 陰陽五行:現象の属性と変化の重視
- 水(水)・火(火):属性としての意味

## 西洋実体(地水火風)中心

- 独立の実体中心の世界観
- 地水火風:物質の実体的構成要素
- 水(水)・火(火):実体としての物質

## 共通点と相違点

- ◆ 空間区分:天界・地界・人界の区分は類似する
- ◆ 核心原理同じ用語概念でも解釈と機能が異なって現れる
- ◆ マテオ・リッチ:「地水火風は実体からなる相関的思惟、陰陽五行は属性からなる相関的思惟」

# 近代原子論と物質文明

近代原子論は西洋の質料的・地観が極大化された形として現れる。

●

## 原子論的世界観の登場

◆あらゆる万物が原子と分子から構成されるという観点の確

立地水火風の実体論的属性を分析的方法で極大化

●

## 西洋物質文明と科学発展

◆近代物質文明発展の核心的基盤

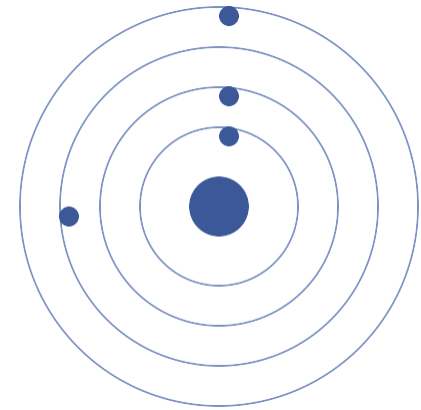
物質世界を分析的に理解し統制する方式の確立

●

## 形相と質料の区分の明確化

◆超越天の形相が質料的世界に実現される関係を強調質料

的世界観の完成であり極大化



# 結論および近代性の危機

西洋の質料的地観は近代文明の発展に大きく寄与したが、その限界点もまた明確に露呈した。

- 物質主義的世界観は科学技術発展の基盤となる
- 質料的地観は近代産業社会と物質文明の原動力

## 近代性の危機

- 物質に偏った世界観は神明体系の崩壊を招く
- 天下を尽滅の境地へ導く危険性を内包
- 近代性の危機の出発点となる

「物質に偏った西洋の質料的地観は神宇宙の神明体系を根こそぎ崩壊させ、天下をむしろ尽滅の境地へと導く契機となった。」